

1986.4



CONFUCIUS
Du Halde, 1735

島田孝右

1735年、パリで刊行されたデュ・アルド著『支那帝国全誌』の中にある孔子像。

孔子はソクラテスにたとえられ、尊敬された。当時ヨーロッパで中国ブームがあり、フランス革命は孔子の思想から起ったとさえいわれている。しかし、『ロビンソン・クルーソー』の著者、英国人デフォーだけは、激しく孔子を攻撃した。なぜか。キリスト教徒で、教養がないと日頃ばかりにされていた彼が、もしこの図絵を見たとなれば、「たかが東洋人が・・・」と……。また、ヨーロッパで、世界は滅びつつあると考える人と、進化しつつあると考える人との間で論争があった。孔子の思想も、両方の支えになったようである。デフォーには、これが我慢ならなかった。

(英語)

図書によせて

吾妻寛治

新入生の皆さん、入学おめでとう。教養図書館を代表して、心から祝意を表します。今年は看護学部の新入生もあり、図書館は一段と活気を呈するものと、館員一同は緊張のうちにもファイトを燃やしています。大いに図書館を活用して、意義ある教養課程を送られんことを願っています。その意味でも図書に対する皆さんの一層の理解を得たいものと、筆を執った次第です。

活字離れは最近の社会問題ですが、これは洋の東西を問わぬ現象といえます。ドイツでよく見受ける光景ですが、とくに学童たちは、〔本のいいことは、たのしめること、プレゼントしたり、されたりできること〕などと印刷された彩色絵入りの手提袋を持ち歩いています。中には、〔手中の書は、屋根のテレビ・アンテナに勝る〕と訳せる文の袋もあります。これは古諺〔手中の雀は、屋根の鳩に勝る〕に倣ったもので、新生の諺として折にふれ口にも文字にもされています。フランス・ロマン派の巨頭ユゴーが世界史最大の事件と驚嘆した印刷術を発明〔グーテンベルク〕、この世に図書を充満させたお国柄らしい一面です。

そのドイツ生まれのノーベル賞作家ヘッセは、〔書の世界こそ、人間が自らの精神から造り出した最大のもの〕と断言しています。彼はまた、〔床を華麗なカーペット、壁を高価な壁布や絵画で蔽っても、書のない家は貧相なものだ〕と、ユニークな図書〔観〕の一端を覗かせています。同様のことを雄弁家で

政治家のローマ人キケロは、〔書なき部屋は、魂なき肉体なり〕と弁じています。このように重視される書こそミュンヒハウゼン〔後述〕が賞嘆する通り、〔人間よりずっと増しな誠実そのものの友〕と申せましょう。しかしヘーゲル哲学の批判者フォイエルバッハの〔人間と同じく、信頼のおける人世の伴侶たる友に選べる書も少ない〕という慨歎もうなずけます。こういう書との出会いこそ、望ましい限りです。ユダヤ人牧師エスラは、〔書は、能力を開発し、暗夜には光明となり、孤独時には慰みとなり、ギブするもテークせぬ友です〕と説教しています。上記ミュンヒハウゼンの賞嘆はこれを借用したもので、全文は〔書は人間よりずっと増しな誠実そのものの友ですぞ。と申すのも無駄口は一切たたかず、恵与するも要求はせんからじゃ〕となります。この人物は十八世紀ドイツの狩猟家にして陸軍士官の肩書をもつ貴族で、その体験談は珍無類です。ほら吹き男爵の異名があり、当時の社交界のヒーローでもあります。いささか彼に立ち入ったのは、〔良書七冊あれば、もはや人間に要なし〕との彼らしい放言を引き出すためでした。これの解説よりは、これを手掛りに図書論の核心にふれ得るからです。天下周知の奇人が事もなげに吐露した〔良書〕なる語こそ、〔悪書〕を前提とするものです。この区別は歴とした社会通念であり、両者の定義は文字通り枚挙にいとまなしです。

十八世紀のドイツ啓蒙主義者リヒテンベルクは、〔老いるほど気に入るのが、良書の確証である〕と言明し、今世紀のドイツ作家ケステンは、〔人間の代理となり、人間に通じる道となり、人間を知る学校となり得るのが、良書である〕と明言し、かの〔歓喜の歌〕の大詩人シラーの友人で風刺作家のハウクに至っては、〔困った時の質草になれる、これこそが良書である〕と彼にふさわしい戯言を飛

ばしています。紙面のこともあり、逆のケースに移ります。

フランスには、「悪書は、泥棒に劣る」といかにもエスプリの利いた諺があり、若死を惜しまれている十九世紀のドイツ叙情詩人ハウフは、「悪書との付き合いは、悪人と付き合うより危険である」と論じ、またまたドイツ人で恐縮ですが、やはり十九世紀の哲学者ショーペンハウエルともなると、彼一流の毒舌で、「悪書は、人間精神を腐敗させる知的毒薬」と極め付けます。これだけでは九牛の一毛ですが、先を急ぎます。

書の良し悪しとは別に、「何の役にも立ち得ない書など、存在しない」と主張するのは、ローマの作家プリニウスです。彼は紀元79年のベスピオス山の噴火の際、ポンペイと最後を共にしました。それはさて、ドイツの文豪ゲーテの苦言「学ぶものがなく、著者の物知り顔だけが鼻につく書」が存在することも、これまた真実です。この種のものは再読も推薦もされず、埋もれることでしょう。「書は読者の理解力に従って、その運命を持つ」といわれる由縁です。これは三世紀末ごろ活躍したローマの詩人テレンチヌス・マウルスの金言です。各人の愛読書は、各人の理解力を示唆するものです。現代アメリカの批評家で作家のパウンドは、「18才で読んだ書を、30年後も有難がる」のをいぶかっています。活字離れで始めたので、その元凶に関する一説を結びとします。イタリアの名優シーカのブラック・ユーモア風な台詞です。

〔テレビは、眼で摂取する唯一の睡眠薬なり〕。

（館長）

芥川賞と直木賞

現在、日本にある文学賞と名のつくものがいったいどの位あるものか。ある資料によればその数、550余り。中でも「無名、もしくは新進作家の登龍門として最も権威ある賞」として紹介されているのが芥川賞と直木賞である。言うまでもなく、かの有名な芥川龍之介と直木三十五の名を記念して昭和10年に制定された賞である。「各新聞、雑誌などに発表された作品の中から最も優秀なものに」とされているが応募方式でないところも共通している。しかし、芥川賞は「小説のうち」、直木賞は「大衆文芸作品のうち」というただし書きがつく。

毎年、発表時期にはマスコミを賑わし、作品よりもタレントとしての焦点のあて方をされることでも有名である。最近では、林真理子の直木賞受賞（昭和60年下半年期）が記憶に新しい。しかし、作品となると、失礼ながら印象に薄い。賞をとって初めて読む作品（ほとんどと言ってよいが）、初めて耳にする名前、映画化・テレビ化されて初めて知ったという作品、いろいろあるでしょう。読書はどんな動機であれ、一つの習慣となればよいと思います。教養図書館は文学青年や文学少女を満足させ得る作品が結構あると自負しております。

※参考文献：

広田広三郎監修「文学賞事典」

（R 9103/H74/Rev.）

2 つ の 自 戒

出 川 一 雄

昨年の春先、植木市で可憐な蕾に目を奪われて山芍薬を買い求めた。3月半ば頃に開いた端正な白い花は、しばらくの間、目をなごませてくれたが、風に誘われたものか、あるじの期待に背いてあっさりと花びらを払い落してしまった。ご用済みの山芍薬が庭先から日当りの悪い木蔭の方へ移されたのは、それから間もなくのことである。

夏の間は水やりのつど、元気な姿をかい間見ることもできたが、秋の深まりとともに枯れてしまった。せっかく丹念に世話をしていたのにと、不平まじりの嘆息を洩らしながら鉢から抜き取ってみると、その根元にはまだわずかながらも生気が残っている。早速、腐葉土を足してやり、鉢植えのまま、庭木の繁みのなかに置いてつぎの春を待つことにした。

長い冬も終りを告げる頃、ふと見ると生き生きとした若芽が雨あがりの陽ざしを受けている。生きのびてくれたことに、ほっとした安堵感を覚えたのはいうまでもない。その山芍薬は間もなく花を開き、枯淡な姿を見せてくれるに相違ない。

山芍薬は茶花であり、多年草である。手入れさえ怠らなければ、毎年同じような美しい花を見せてくれるはずである。ところが、このあるじは、さような育て方には無とん着なまま、草花に接してきたようである。

花が開けば賞でて喜び、その命が終れば庭の片隅に追いやり、それが枯れると危うく捨て去ろうとする。勝手なものだ。これが自分の教え子だとしたら、果してどんなものだろうか。もの言わぬ草花に教えられ、汗顔の思

いに駆られるこのごろである。

× × ×

古い話で恐縮だが、20年ぐらい前のことである。知人に頑固一徹のイギリス人がいた。私達は彼を“ジョニー”と呼び、彼は私を“デッカー”と呼んでいた。オックスフォードのなかでも俊才が集まるといわれる哲学科出身だけに、その頭脳の切れ味はすばらしかった。

ところが、その個性たるや豊かさを通り越して強烈そのものであり、数多くの欠点をも兼ね備えているのに、恬然（てんぜん）として全くこれを意に介さなかった。「欠点なき者は死者も同様」（One is lifeless that is faultless）ぐらいに考えていたに相違ない。

それだけに、彼にとっては日本という仲間社会に生息する日本人の均質性が摩訶不思議（inscrutable）に思えてならない。その挙句、「日本人は竹やぶの竹みたいなものだ。どの竹を取って、どのように縦に割っても同じ節目が見えるし、どのように横に切っても同じ形の穴が見える。」とのご託宜である。

こちらは日本人である。口惜しいから、「それに引きかえ、お前さんの方は雑木林の古い切り株みたいなものだからな」と切り返えしたところ、白い顔を真赤に染めながらも黙っていた。怒りの余り早口の英語で私を罵倒しても、私に通じないことをよく知っていたからであろう。

その彼もイギリスへ帰って貿易商を営み、時々、商用で日本へやって来る。往年の強い個性はその欠点と共にすっかり影をひそめ、文字どおり英国紳士になってしまった。歲月

がそうさせたのか、マナーのうるさい上流社会でとげが抜かれたものかよく分らない。そういうえば、『吾輩は猫である』のなかで、苦沙弥先生が鈴木某に、「角があると世の中を転がって行くのが骨が折れて損だ」、「転がるたびに角がすれて痛い」ものだと意見されているが、ジョニーにもそんなことがあったのかもしれない。それにしても、いささか淋

しい気がする。

人のもつ欠点のなかには、その人の個性と背中合せになっているものがある。人生の修業の場で欠点の除去・補正は大切なことだが、うっかりするとその人の個性までも抹殺してしまうおそれがある。新米教師の私などは、さしずめこの点について重々戒心する必要があるようだ。（法学）

新収図書より

若き日の人と学との出会い 002/W19
杉靖三郎(等)著 思泉社 1985
渡辺華山一人と芸術— 289/W46
菅沼貞三著 二玄社 1982
事典現代のフランス 293, 503/J55
新倉俊一(等)編 大修館書店 1985
現代社会の歴史的位相 361.2/Y39
山之内靖著 日本評論社 1982
科学者のための研究発表のしかた 407/Su73
砂原善文著 朝倉書店 1985
数値計算の常識 418.1/I63
伊理正夫(等)著 共立出版 1985
エントロピーとは何だろうか 426.5/Ko29
小出昭一郎著 岩波書店 1985
元素の事典—先端技術の基礎を知る— 431.11/O68
大沼正則編 三省堂 1985
宇宙の生命 440/Sh49
清水幹夫著 共立出版 1985
はみだし者の進化論 467/O54
奥井一満著 光文社 1984
人間の生物学—現代人類学— 469/N76
佐藤方彦(等)著 朝倉書店 1985
飲み水の雑学 519.1/O97
小沢正昭著 形成社 1985

新編自動車工学便覧 R537.03/J48
自動車技術会編 図書出版社 1984
食べ物 596/Ta12
森亘(等)著 東京大学出版会 1985
ピカソ<ゲルニカ>の誕生 723.36/P59k
A.プラント著 荒川信一訳 1985
日本現代演劇史—明治・大正篇— 772.1/O96
大笹吉雄著 白水社 1985
ノンフィクションの言語 901.4/Sh66a
篠田一士著 集英社 1985
ドナウの旅人 上・下 913.6/Mi77/1-2
宮本輝著 朝日新聞社 1985
英米文学にみる現代人の意識の変容 930.2/Y16
柳生望著 ヨルダン社 1985
イタリア文学史 970.2/I88
岩倉具忠(等)著 東京大学出版会 1985
○ 新書
わが戦後俳句史 金子兜太著 岩波新書 322
国際連合—その光と影— 明石康著 323
書斎の王様 図書編集部編 324
「文明論之概略」を読む(上) 325
丸山真男著 328
歌右衛門の六十年 中村歌右衛門著 329
外国語上達法 千野栄一著 786
大阪弁おもしろ草子 田辺聖子著

□ 閲覧証の交付

教養図書館を利用するには閲覧証が必要です。新入生の皆さんには下記の日程で交付します。当日カウンターまで取りに来て下さい。ただし、医学部は医学図書館で4月21日以降交付します。なお、交付までの間は、学生証を使用して下さい。

衛生学部	4月8日
薬学部	4月8日
獣医畜産学部	4月23日
水産学部	4月24日
看護学部	4月25日

□ 雑誌

一階の雑誌コーナーの書架表側には新着雑誌が、扉を開けると中に、その年のバック・ナンバーが入っています。1年分がまるとまると、製本され、二階の書架に排架されます。ただし、1980年以前の雑誌や、雑誌コーナーにない雑誌についてはカウンターでおたずね下さい。

雑誌の貸出期間は、新着の雑誌がオーバー・ナイト（一夜）貸出、古いものが一週間です。また本学がどのような雑誌を購入・所蔵しているか知りたい方は、『北里大学学術雑誌総合目録』を利用して下さい。

□ 新聞

教養図書館では、朝日、毎日、読売、日本経済の各新聞のほか、神奈川、北海道、河北、信濃毎日、中国、西日本、沖縄タイムズの地方紙、読書新聞、英字新聞、専門紙など約20

種ほど受入しています。新聞は3ヶ月保存して廃棄します。それ以前のものを読みたい場合は縮刷版（朝日、毎日、読売、日本経済）を利用して下さい。新聞の貸出はしませんが縮刷版は雑誌と同様、一週間の貸出ができます。

□ その他

教養図書館ではこの『閲覧ニュース』を年、数回発行しています。蔵書紹介や新着図書案内、またエッセイやその時々のお知らせなど、利用の手びきとして、『図書館利用案内』とあわせて御覧下さい。

* * * *

「講義用参考文献コーナー」について

図書館では、講義の理解に役立つ参考書をはじめ先生方が講義の際に触れられる可能性のある図書を購入して利用の便宜を計っております。学生の皆さんが、毎日の講義内容をよりよく理解し、専門分野の考え方のヒントをえられるようにこれらの図書を集めたコーナーです。大いに利用して下さい。

□ 編集後記

今年の冬は、受験を控えていた皆さんには一年にも二年にも感じられる永い冬だったのではないのでしょうか。

春、四月。新入生をお迎えできたことを館員一同うれしく思います。

今回、表紙の写真提供と解説をいただいた島田助教授は三月にて退職、お忙しい中での御協力に紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

閲覧ニュース48号

1986.4 発行

北里大学教養図書館

発行責任者 吾妻寛治

〒228

相模原市北里1-15-1

電話(0427) 78-8005